

いのちをつなぐネットワーク 「見つける」「つなげる」「見守る」

市民福祉常任委員會
北九州市視察
5月13・14日

5月13日（火）・14日（水）の2日間、市民福祉常任委員会の所管事項調査があり、栗山香代子議員が参加しました。行先は北九州市です。

人は「なげる」「なげる」で
きることから、見守りの輪に参
画する「見守る」が、キーワー
ド。新たなネットワークを立ち
上げるのでなく、既存の仕組み
をいかして、住民、関係団体、
民間企業、行政が一体になって
取り組もうと、平成20年から開
始されました。対象は全ての年
齢ですが、高齢化率が高いこと
もあって、高齢者が多くなって
います。

北九州といえば、生活保護を受けられずに「おにぎり食べたいい」と書き残して亡くなつた事件が有名です。それらを踏まえて、住民が孤立することなく、支援が必要な人を福祉につなげることができるように、地域全体で見守るというものです。

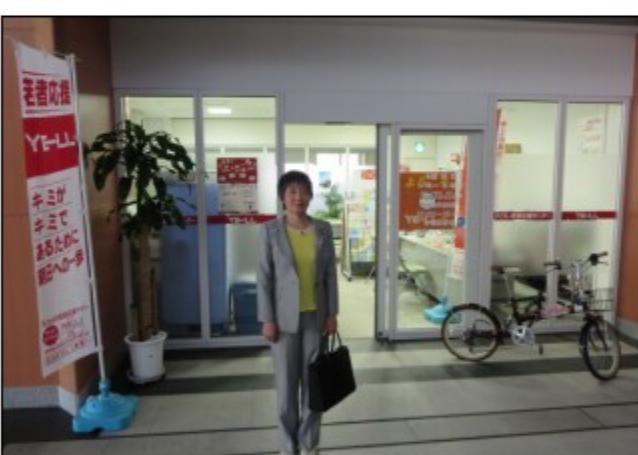
北九州市は、1963年に門司・小倉・若松・八幡・戸畠の5市が対等合併してできた政令指定都市で、昨年、市政50周年を迎えたそうです。488km²で、100万都市といいながら平成22年の国勢調査では97万人強、高齢化率は25・1%、年少人口が12・9%。なお、厚木市は93・83km²、22万4千人で、高齢化率17・9%、年少人口13・7%です。

のセンター長を始め、臨床心理士や教員資格をもつ職員が4人という、市の施設の中にある小さな場所ですが、開設から3年半での利用者は延べ1万302人にもなるとのこと。

最初の対応はここですが、その後は個人に合わせて、さまざまな関係機関との連携で、対人関係改善や就職へ向かえるように支援をしていきます。



子育てふれあい交流プラザ 『元気のもり』



特製王冠チヂチと双子の子どもたちの前で、所長の説明を聞く。

A woman with short dark hair, wearing a yellow polo shirt with a name tag, stands next to two large, life-sized Monchhichi figurines. The figurines are dressed in colorful clothing; one wears a pink hat and the other a blue hat. They are positioned on a green circular base that looks like a tree stump. The background shows a brightly lit store interior with shelves and a large circular light fixture.

計画にあたっては、子育て関係の団体等から意見を聞き、識者を入れてじっくり検討して、子どもの目線を重視して作り上げたとのことです。視察をしながら、何度も、しゃがんで見てみました。大人の目線と子どもの目線は、確かに違います。

プレイゾーンの利用はゼロ歳は無料ですが、大人が200円、小学生以下が100円。

子育て支援では、「初めて抱くのが、わが子だった」という人が多くなり、親の不安や負担の解消に役立っています。

また、地域の子育て支援団体に活動や情報、人材交流の場を提供。